2022年度学内研究助成 成果報告書

① 報告者所属・氏名

生活文化学科　長崎　勤

② 事業名

自閉スペクトラム症児における「心の理解」・協同活動の発達支援プログラムの開発

③ 事業の目的

自閉スペクトラム症（以下ASD児）では、「心の理解」・協同活動の障害が大きな特徴と考えられるようになり(アメリカ精神医学会，2013)、社会参加の大きな妨げになることが多い。しかし、「心の理解」・協同活動の実態をアセスメントし、それに基づいて支援する方法論の開拓が不十分であるのが現状である。

「心の理論」の発達には、親しい他者に自己の経験を伝えるパーソナル・ナラティブや絵本や劇などのフィクショナル・ストーリーが重要な役割を果たしていることが指摘されており(Bruner,1997)、「心の理論」に困難のあるASD児に、この理論に基づいた発達支援プログラムを開発する。また、協同活動の発達は、目標の共有、相互の役割理解、他者への援助といった要素から構成されていると考えられ（Tomasello,2013）、ゲームや日常生活の中での協同活動の発達支援プログラムを開発する。

④ 事業実績・研究成果（具体的に）

1.対象児：

ASDのA児、7歳。発達年齢5歳前後。Y小学校在籍。月2回、J大学の発達支援プログラムに参加。ASDのB児、6歳。発達年齢4-5歳。C 特別支援学校に在籍。

2. 「心の理解」・協同活動の発達支援プログラムの開発：

1)ASD児を対象に、劇、ゲーム、カフェごっこに組み込まれた他者の「心の理解」・社会性・協同活動の特性のアセスメント方法を検討する。

2）劇、ゲーム、カフェごっこの活動に、「心の理解」・協同活動の支援目標を組み込む。

3. 「心の理解」・協同活動の発達支援プログラムの実施・分析

開発したプログラムを、ASDのA児に適用する。A児は、月2回、J大学の自閉症児のための包括的発達支援プログラムに参加。

＜ゲーム・劇・カフェごっこの活動における「心の理解」・協同活動の発達支援＞

1）ASD児の協同活動の支援―宅配便ゲームによる情報提供・情動共有・問題解決の支援―

意図と注意を共有する協同活動において、情報提供と情動共有の習得を促すこと、また他者との対話的な問題解決を促すこと、以上 2 つの支援による協同活動の発達について検討した。A児と大学生1名がペアとなり、貨物列車で注文された荷物を運ぶゲームを行った。ゲームの流れは、①1人が注文票にある荷物を選び、籠(S1～S2)・布(S3～)に置く②ペアとハイタッチをして交代する(①に戻る)③全ての荷物を籠・布に置いたらペアと一緒に貨物列車まで運ぶ④貨物列車に荷物を入れ家まで運転する、とした。全セッションにおいて、荷物を届けた後にペアとハイタッチをする場面(情動共有)を設けた。また、S5からは、ペアが注文内容を忘れて困る場面(情報提供)を設けた。その結果、A児は「情報提供」「情動共有」の支援によって「他者への注目」の習得を、対話的な問題解決の支援によって「他者との目的・

意図(プラン)の共有」の習得を促され。そして、A 児が以上の能力を習得したことは、協同活動の 3 つの要件の特に「相互の援助」と、協同活動に必要なペア意識の獲得を促し、協同活動の成立を発達させたといえる。つまり、情報提供、情動共有、問題解決の支援が螺旋的に相互に発達を促した結果、A 児は会話によってペアと注意・意図・気持ちを「共有」できるようになり、協同活動の発達へと繋がったと考えられる。

2）ASD 児への劇「3 匹のヤギのがらがらどん」による協同活動・「騙し」の理解の支援

因果関係を含んだ物語の理解、繰り返される簡単な協同活動、高次な騙し要素を含む「3 匹のヤギのがらがらどん」の物語を用いて、様々な役割を行い、登場人物の視点の違いを理解することを通して、物語の因果関係を理解し、登場人物の心的状態に気づく経験を通して「物語理解」の発達、行為とセリフを繰り返し、みんなで協力してトロールを倒す「協同活動」の発達を検討した。また、「嘘はついていないが結果的に騙された」、「演じる視点によって捉え方が変わる」高次な騙しの経験を通して「心の理解」の発達を検討した。その結果、理解要素の達成度が上がるにつれて、表出要素の達成度も上がっていった。行為の遂行が基盤となり、言語の習得に至るという長崎（2000）の報告と類似しており、劇を通した言語・コミュニケーション指導における指導上の示唆が得られたといえる。中くらいのヤギと大きいヤギ役の際に、小さいヤギに注目する行動は徐々に自発的にできるようになったが、小さなヤギと中くらいのヤギ役の際に大きいヤギへの注目ができず、目標であった「協力してトロールを倒す」の理解には、ばらつきが見られた。トロールが逃げながら、場面で「騙された」というセリフを言うことはできたが、「なぜ、トロールが騙されたという気持ちになったのか」という質問には応えられなかったことから、「誰も誰かを騙しているわけではないが、結果的に騙されたと感じる」という、この物語における高度な騙しについては十分には、理解ができなかったと考えられる。しかし、家庭では、父親に対して「嘘をついたな」という発言等がみられ、「騙す・嘘をつく」という行為自体は理解し始めており、A 児は「騙し」の理解の発達プロセスの途上にあるものと考えられる。

3）ASD 児のおやつ場面での話し合いによる役割選択―自己調整行動と他者理解－

カルピス®発達支援プログラムのカフェごっこを行い、役割選択の話し合い活動を通して自己を巡る問題解決場面での他者理解・自己調整行動について検討していくことを目的とし指導を行った。A 児はカルピス®カフェごっこの活動を通して、他者に欲求や意図があるということを理解し、他者理解の促しへとつながった。集団の中で自分の意見を表明し、他者の意見を聞きながら合意を形成できるようになることは、子どもが自己を実現し、他者とともに生きる社会の成員となる上で重要と考えられる服部(2000)。A 児は、初期には自己の意見よりも他者の意見を優先する自己調整活動を用い、画一的な解決方略を選択していた。小島（2014）は、ASD 児は自己と他者の意見調整において自分と他者の両方を考慮した対応方法を見いだすことが困難であり、どのような状況においても画一された対応方法をしがちであることが観察され、対人関係に関わるスキルの未熟さと関係していると述べている。一方、A児は指導の後期のＳ15 では、ＳＴの促しにより模倣で自己を優先する方略を用いられるようになった。これは、話し合い活動を通して、パターン化されていない状況にも柔軟に対応できるようになったこと、また 11 月に行われた大学学園際での「なかよしカフェ」での成功体験によって、役割の希望が強くなったことも影響したと考えられる。

⑤ 研究成果の発表・活用（学会発表・論文掲載・地域連携・産学連携など）

＜図書＞

・長崎　勤・吉井勘人・長澤真史(編著)・日本発達心理学会「発達障害」分科会（監修）(2022) これからの特別支援教育－発達支援とインクルーシブ社会実現のために－　北樹出版

＜論文＞
・吉井 勘人・石田 悠莉(2022)「すごろくゲーム」共同行為ルーティンを用いたＡＳＤ児へのナラティブ発達支援：双方向メディアツールを介して．教育実践学研究 ： 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要,第 4 巻､47-57.
・青木 雄一・波多野浩史・吉井 勘人（2022）特別支援学校における ASD 児の共同注意を促進する試み：SCERTS モデルを活用して．　山梨障害児教育学研究紀要,第 16 巻,73～88.

＜学会発表＞
・長崎　勤・若井広太郎・吉井勘人・板倉達哉（2022）自閉スペクトラム症児の幼稚園での子供同士の関わりにおけるコンサルテーションによる保育者の介入の効果（1）－初期アセスメントに基づく支援方針―.日本特殊教育学会第 60 回大会（筑波大学）発表論文 P13-2.（ポスター発表）
・若井広太郎・長崎　勤・吉井勘人・板倉達哉（2022）自閉スペクトラム症児の幼稚園での子供同士の関わりにおけるコンサルテーションによる保育者の介入の効果（2）－子供同士の関わりの変化と家庭・専門機関との連携－.日本特殊教育学会第 60 回大会（筑波大学）発表論文集 P13-3.（ポスター発表）
・日本発達心理学会発達障害分科会(監修) ・長崎 勤・吉井勘人・長澤真史（編著）(2022) これからの特別支援教育―発達支援とインクルーシブ社会実現のために.北樹出版.
・高嶋詩緒・小園知沙・吉井勘人・板倉達哉・長崎 勤（2023）自閉症児への包括的発達支援プログラムの開発（4）－劇あそび「3 匹のこぶた」での複数役割遂行による 6 歳自閉症児への物語理解・「心の理解」の支援－．　日本発達心理学会第 33 回大会論文発表集 4PM1-G-PS25.（ポスター発表）
・吉井勘人・青木雄一・長澤真史（2022）特別支援学校の授業における ASD 児の仲間との対話の特徴―「朝の会」活動の相互行為の分析を通して―. 日本発達心理学会第 33 回大会, 研究発表 - 障碍 2.（ポスター発表）
・青木 雄一・波多野 浩史・吉井 勘人（2023）特別支援学校における知的障害を伴う自閉スペクトラム症児の社会情動的スキルの向上：社会情動的スキルアセスメントシート用いた PDCA サイクルの実践をとおして．教育実践学研究, 28.2023 年 3 月刊行予定.
・板倉達哉・長澤真史・吉井勘人(2023)　保育コンサルテーションにおける写真記録の可能性－写真の特徴や変化に関連して－.日本発達心理学会第 34 回大会論文集, 3PM1-P-PS31

⑥ 今後の展開・継続性について

引き続き、自閉症スペクトラム障害児における社会性・情動発達のアセスメント方法と発達支援プログラムの開発をすすめる。